

---

---

## 近畿病歴管理セミナー教育講演会のお知らせ

---

---

初冬の候、貴院ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

来年大阪で開催されます「第 45 回 日本診療情報管理学会学術大会」の開催まで 1 年を切り、大会実行委員会である本セミナーの委員一同、鋭意準備を進めております。より多くの診療情報管理担当者や学生が興味を持たれ、参加していただけますようよろしくお願い申し上げます。

さて、今年度の教育講演会は、本年 4 月に近畿病歴管理セミナー副会長に就任し上記学術集会の副大会長も務める、大阪大学医学部附属病院 医療情報部副部長、大学院医学系研究科 医学専攻 情報統合医学講座 医療情報学准教授の武田理宏先生による講演会を開催させていただくこととなりました。現在多くの病院に電子カルテが導入され、それに伴い診療情報管理士の役割も大きく変わっています。これからの電子カルテ時代に期待される診療情報管理士の役割について、大阪大学医学部附属病院での実例を挙げながらご紹介させていただきます。診療情報管理担当者ならびに広く多職種の皆さまにご参加いただきますようご案内申し上げます

### 記

1. 開催日時：平成 31 年 1 月 26 日（土）13 時 00 分～15 時 00 分（受付 12 時 30 分から）

2. 会 場：公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院「あったかふれあいホール」  
(<http://www.nissay-hp.or.jp/access/>)

※お越しの際は、公共交通機関をご利用ください

3. テーマ：『電子カルテ時代に活かされる診療情報管理士の知識と経験』

【講師】：大阪大学医学部附属病院 医療情報部 副部長  
大学院医学系研究科 医学専攻 情報統合医学講座 医療情報学 准教授  
武田 理宏先生

【座長】：近畿病歴管理セミナー会長  
齊藤 正伸 先生  
独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター 院長

4. 定 員：200 名（定員になり次第、受付終了）

5. 参加費：会員・通教生・認定校学生 1,000 円、非会員 2,000 円  
※ 当日受付にてお支払いください。

6. 申込期間：平成 30 年 12 月 17 日（月）～平成 31 年 1 月 23 日（水）

7. 申込方法：近畿病歴管理セミナーホームページからお申込ください。<http://kinzemi.gr.jp/>

※ 申込の入力が完了しますと、申込内容確認メールが送信されます。  
プリントアウトして当日受付にご提出ください。

※ 参加申込後のキャンセルはできるだけご遠慮ください。やむを得ずキャンセルされる場合は、講演会前日の 15 時まで下記連絡先までご連絡ください。

8. その他：当日の資料は開催日より約 1 週間前に近畿病歴管理セミナーホームページに掲載します。お申込みいただいたメールアドレス宛に資料ダウンロード用パスワードをお知らせいたしますので、参加者各位にて印刷して持参してください。

<問い合わせ先> 近畿病歴管理セミナー企画教育部 E-mail: [kyoiku@kinzemi.gr.jp](mailto:kyoiku@kinzemi.gr.jp)



## 近畿病歴管理セミナー教育講演会

### テーマ「電子カルテ時代に活かされる診療情報管理士の知識と経験」

大阪大学医学部附属病院 医療情報部 副部長  
大学院医学系研究科 医学専攻 情報統合医学講座 医療情報学 准教授  
武田<sup>たけだ</sup> 理宏<sup>としひろ</sup>

紙の診療録の時代、診療記録を管理し、円滑な患者情報のアクセスや、効率的な患者情報収集を支えていたのは診療情報管理士です。

近年、多くの病院では電子カルテを使って診療を行うようになりました。現在の電子カルテは、オーダエントリシステムから、電子カルテの3原則（保存性、見読性、真正性）を担保しながら発展したもので、診療記録の電子化の観点では、十分な機能を有していません。電子カルテが正しい方向に発展するためには、診療記録管理のプロである診療情報管理士が声を上げる必要があります。どういった記録を電子カルテに保存すべきか、診療記録として取り扱うべきでない記録をどう取り扱うか、効率的な情報収集をいかに支援するか、患者情報の漏洩をいかに防止するか、医療安全への貢献、データの二次利用に向けた取り組みなど、議論すべき点は多々あります。

大阪大学医学部附属病院では診療情報管理士が電子カルテ機能仕様書を作成し、機能を実装してきました。その実例を挙げながら、電子診療記録として電子カルテを見たときの課題を明らかにしていきたいと思います。

「院内で一番、カルテの事を知っているのは誰か」、「院内で一番、医療情報のデータフローを掴んでいるのは誰か」、「院内で医師と臨床で議論できる事務職は誰か」、現場の診療情報管理士の皆さんには大きな役割が課せられていると思います。

本講演が皆様の日常業務の何らかのヒントになれば幸いです。